付スルカ如キハ萬無之ト信シテ疑ハス然レハ撿事ハ何時ヲ問ハス発覚スレハ起訴シテ更ニ再犯ノ刑ヲ求ムルハ勿論ト相心得候得共其刑ノ適用ヲ求ムルニ當リ刑法何レノ條ニ適當スルモノナル哉「訓示」再犯ヲ初犯ト詐リ刑ヲ受ケシ者處分方請訓ノ趣ハ更ニ其刑ノ適用ヲ求ムルニ及ハス

（福島始審廳撿事 十五年一月十日請訓 同年二月七日訓示）旧法懲役終身新法無期徒刑ノ既決囚逃走シ後捕ニ就キ或ハ官ニ自首シタルトキ刑法第百四十二條ノ刑ヲ適用セントスルモ執行ヲ為スヲ能ハスシテ必竟無効ニ属スルヲ故監獄則第百一條ニ依リ典獄ニ於テ處分スルモノト存候然レハ右犯罪者逃走罪ノ証明確ナル上ハ公判ニ付セス當官ヨリ直ニ典獄ニ送付スル儀ト心得可

無期刑ノ囚逃走シ餘罪ヲ犯スヲナキモ公判ニ付ス

放火及ヒ盗難届等モ犯罪事件ノ捜査ヲ終リタル後第百七條以下ノ規則ニ依リ起訴ノ處分ヲ為ス

然哉「訓示」公判ニ付スヘキ者ト心得ヘシ

（静岡始審廳撿事 十四年十二月十七日 十五年一月十三日付 同）従来被害者ヨリ訴出スル所ノ放火及ヒ盗難届等ノ類モ則犯罪ノ報知ナリ是等モ治罪法第三編第一節中ニ列記アル告訴ト同シク被告人誰某タルヿ分明セサルモ唯其事件ニ對シ豫審ヲ求ムルハ勿論ナル哉「指令」治罪法第九十二條ノ規則ニ従ヒ捜査ヲ終リタル後第百七條以下ノ規則ニ依リ起訴ノ處分ヲ為スヘシ

被害者ヘノ通知ハ尋常郵便ヲ以テス

（松山始審廳檢事十五年一月十日付同年同月十四日付）治罪法

第百八條被害者ヘノ通知ハ尋常郵便ニテ宜シキ哉「指令」伺ノ通電報

第百八條　前條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ル時ハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

非現行犯ノ豫審ヲ要スル者ニ對シテハ檢察官ハ第百九條處分ヲ為スニ止ム

濱田始審廳檢事（十四年十二月廿七日付同年同月廿八日付）非現行犯罪ニテ豫審判事ニ辭及シ至急着手セサレハ証據湮滅スル塲合検事ニテ吟味苦シカラス哉「指令」非現行犯ノ豫審ヲ要スル者ニ對シテハ檢察官ハ第百九條ノ處分ヲ為スニ止ル儀ト心得ヘシ

第百九條　検事豫審ヲ求ムル時ハ証憑及ヒ事實參考ト為ル可キ事物ヲ送致シ且臨検ス可キ塲所逮捕ス可キ人名及ヒ原被ノ証人ト為ル可キ者ヲ指示ス可シ

第二節　民事原告人ノ起訴

第百十條　重罪輕罪ノ被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ為サントスル時ハ告訴ト共ニ之ヲ申立テ又ハ告訴ヲ為シタル後其旨ヲ豫審判事ニ申立ツ可シ

豫審判事直チニ被害者ヨリ民事原告人ト為ル可キノ申立ヲ受ケタル時ハ檢察官ノ起訴ナシト雖モ公訴私訴ヲ併セテ受理シタル者

トス

豫審判事ハ何レノ場合ニ於テモ直チニ被告者ヨリ民事原告人ト為ル可キノ申立ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

第百十一條

第百十一條　被害者ハ公訴ノ本案ニ付キ始審終審ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ私訴ヲ為シ若クハ其要ムル所ヲ変更スルヿヲ得

又私訴ノ願下ヲ為シタル後更ニ其申立ヲ為シ若クハ其要ムル所ヲ変更スルヿヲ得

第百十二條　被害者ハ代人ニ委任シテ私訴ヲ為シ又ハ其願下若ハ棄權ヲ為スヿヲ得

被害者無能力ナル時ハ法律ニ定メタル代人之ヲ為ス可し

十四年廿二月第七十三号布告治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔当人ト称スル者ハ左ノ通

無能力者

一未丁年者
二妻タル者
三白痴疒癲人
四治産ノ禁ヲ受ケタル者
法律ニ定メタル代人
一未丁年者ノ父若クハ母
又ハ親属後見人
二夫タル者
三白痴疒癲人ノ保管者
四治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ
財産管理人
民事擔當人
一未丁年者ノ父若クハ母
又ハ同居ノ親属ニシテ
監督ヲ為ス者
二夫タル者
三白痴疒癲人ノ保管者
四雇主
但雇人其雇主ノ命シ
タル事件ヲ行フ時